

20. 西南戦争 (1877年)

明治維新が起こって以来、明治政府が初めて本格的に軍事行動を起こした戦いであり、日本史上最大にして最後の内乱が西南戦争です。

明治時代になって士族は江戸時代以来の特権を次々と奪われ、生活が苦しくなり、士族の不満が募っていました。西日本を中心に各地で士族の反乱が起こっていましたが、政府によって次々と鎮圧されていた中、征韓論を主張し政府を去った西郷隆盛が、故郷の鹿児島で不平士族に押されて武力蜂起しました。
(西南戦争といいます)

しかし、徴兵令によって組織された近代的な政府軍に敗れました。
その後、政府への批判は武力による反乱から、言論が中心となっていきました。

嫌な内乱、西南戦争 1877年

34. 日清戦争 (1894年)

日清戦争とは、朝鮮半島の支配権をめぐって日本と清国が戦った戦争です。
朝鮮の農民たちが起こした反乱(甲午農民戦争)をおさえるために、朝鮮は清に援軍の派遣を求めます。

日本も、「清が出兵するなら日本も出兵だ!」と、朝鮮に出兵します。
朝鮮の内乱がおさまっても両軍とも兵をひかず、そのまま日清戦争が始まりました。

おもに朝鮮が戦場となり、近代的な軍事力のある日本軍が圧勝しました。この戦争をきっかけに、日本は飛躍していくことになります。

1895年、講和の話し合いが行われ、下関条約が結ばれました。
(清は朝鮮の独立を認め、遼東半島、台湾などを日本に譲り、多額の賠償金支払うことになりました。)

一発、急所で清破る 1894年